

定期報告（ウルグアイ政治・経済：2024年9月）

【ポイント】

内政

● 8月～9月の大統領選挙に向けた各社世論調査結果は、野党拡大戦線（F A）と連立与党が7ポイント差以内で拮抗する結果となった。

外交

● 2日、当国でメルコスール外相会合が開催され、域内貿易障壁の克服を通じた域内強化について協議した他、アルゼンチンがより柔軟で異なる交渉形態を適用する可能性について提案し、これまでウルグアイが単独で主張していた立場に与ることになった。また、「ボリビアのメルコスール加盟議定書」が8月7日に発効し、それをもってボリビアが加盟国のステータスを獲得したことが強調された。

● 26日、ラカジェ・ポウ大統領は国連総会一般討論で演説し、ベネズエラにおける人権侵害等について非難した他、ウルグアイが発行する環境目標の達成度合により金利が決まる債券に言及し、また、保護主義を排し開かれた世界を目指す重要性を訴えた。

● 26日、パガニーニ外務大臣はベネズエラ関連会合に出席し、ラテンアメリカにおける人権擁護及び民主主義の重要性を強調した他、ウルグアイに定住を希望するベネズエラ国民の受入れ及び支援を継続すると述べた。

経済

● 4日付け現地紙は、国家統計院は8月の消費者物価指数が前月比0.29%増となり、過去12か月間のインフレ率は前回の5.45%から5.57%と微増したものの、15か月間連続で目標インフレ率（3%～6%）を達成したと発表した旨報じた。

● 13日付け現地紙は、ウルグアイ中央銀行は第2四半期のGDP成長率が3.8%（前年同期比）となり、本年前半の平均GDP成長率は2.2%を記録したと発表した旨報じた。

【本文】

1 内政

（1）大統領選挙に向けた世論調査結果

当地世論調査会社は、10月の大統領選挙に向けた投票意向に関する8月～9月の世論調査結果を発表した。各党の支持率は、EQUIPOS社の調査では野党F Aが41%、連立与党全体が38%、FACTUM社の調査では前回の調査結果から動きがなく野党F Aが44%、連立与党全体が49%、OPCION社の調査では野党F Aが

43%、連立与党全体が42%の結果となった。

2 外交

(1) メルコスール外相会合の開催

ア 2日、メルコスール議長国を務めるウルグアイのイニシアティブにより、外相会合がモンテビデオで開催され、域内貿易障壁の克服を通じた域内強化等について協議した。

イ 4日付当地エル・pais紙の報道では、同会合で、モンディーノ・アルゼンチン外相が「第三国又は国グループとの間で、より柔軟で異なる交渉形態を順次適用すること」を提案し、これまでウルグアイが単独で主張してきた立場に与ることになった。一方、ブラジルとパラグアイが、メルコスールが交渉柔軟化の道を深化させることに反対していることが明確になったと報じた。

ウ 同会合で、「ボリビアのメルコスール加盟議定書」が8月7日に発効し、それをもってボリビアが加盟国のステータスを獲得したことが強調された。

(2) ラカジェ・ポウ大統領による国連総会一般討論演説

26日、ラカジェ・ポウ大統領は第79回国連総会で一般討論演説を行い、以下のとおり述べた。

- ・（ベネズエラの）政治的迫害、人権侵害、恣意的な野望と同様に、不正、政権、墮落した選挙プロセスを非難しなければならない。今こそベネズエラのため、そしてベネズエラ人のために行動を起こすときであり、もし国際社会がこうした（ベネズエラ政権の）態度に寛容であるならば、今日ベネズエラ人が経験しているようなことに服従する次の国を待つしかない。

- ・ウルグアイは、環境目標の達成度合により金利が決まる債券や融資などの（金融）商品を発行する先駆者である。（この金融商品は）国家の財政に利益をもたらす一方で、環境の保護にも寄与するという連鎖効果を有している。

- ・保護主義は、我々国民の発展のブレーキとなっており、かかる障害によって孤立化が助長されている。国内経済をないがしろにすることなく、他国の財・サービスに対してより開かれた世界への方向性を生み出すべきである。

(3) パガニーニ外相のベネズエラ関連会合出席等

26日、パガニーニ外相は、ブリンケン米 국무長官とモンディーノ・アルゼンチン外相の要請により、国連総会の枠組で招集された、ベネズエラにおける人権侵害及び制度的危機の緊急状況に関する閣僚級会合に出席した。パガニーニ外相は、ラテンアメリカにおける人権擁護の必要性和民主主義を守ることの重要性を強調した他、ベネズエラの状況は地域の安定に影響を及ぼすと警告するとともに、ウルグアイは、同国に定住することを選択したベネズエラ国民を受入れ、支援し続けると述べた。この他、パガニーニ外相は、ニューヨーク訪問をして、G20外相会合等に出席した。

3 経済

(1) 国家統計院によるインフレ率の発表

4日付当地エル・pais紙は、国家統計院(INE)は8月の消費者物価指数が前月比0.29%増となり、過去12か月間のインフレ率は5.45%から5.57%となったと発表した旨報じた。これにより、インフレ率は過去15か月間連続で目標インフレ率(3%~6%)を達成しており、2003年に目標インフレ率の運用が始まって以来達成最長記録を更新したと報じた。

(2) ウルグアイ中央銀行による経済成長率の発表

13日付当地エル・pais紙は、ウルグアイ中央銀行(BCU)が第2四半期のGDP成長率が3.8%(前年同期比)となり、今年前半の平均GDP成長率は2.2%を記録したと発表した旨報じた。専門家は、主な要因として、前年発生した干ばつで大きな被害を受けた農畜産物輸出が回復したことに加え、アルゼンチン・ウルグアイ間の価格格差縮小により国内に個人消費が戻り商業セクターの復活が成長に貢献したと説明した。

4 要人往来

(1) 往訪

- ・8~11日：サンギネッティ観光大臣のコスタリカ訪問(観光と持続性委員会)
- ・10日：ブビエール観光大臣のブラジル訪問(ラ米カリブ環境大臣特別会合)
- ・15~21日：マツス農牧水産大臣のオーストリア訪問(IAEA総会)
- ・18~26日：サンギネッティ観光大臣のブラジル(G20観光大臣会合)、オーストリア(旅行観光国際フォーラム)歴訪
- ・23~28日：アルベレチェ経済大臣の訪米(国連総会環境関連会合)
- マルティネリ内務大臣のエクアドル訪問(ラテンアメリカ治安サミット)
- ・24日~30日：パブロ・ダ・シルベイラ教育文化大臣のフランス訪問(UNESCOラ米カリブ高等教育国際機関)
- ・24~10月5日：パガニーニ外務大臣の米国(国連総会)、メキシコ(大統領就任式)歴訪
- ・26日：ラカジェ・ポウ大統領の訪米(国連総会)

(2) 来訪

- ・2日：モンディエーノ・アルゼンチン外相、ソーサ・ボリビア外相、ビエイラ・ブラジル外相、ラミレス・パラグアイ外相の当国訪問(メルコスール外相会合)